1. 調査の経緯

平城宮の東には、南北750m東西250mの張り出し部があり、その南半部（南北350m）を東院地区と呼んでいます。東院地区には、皇太子の居所である東院、天平聖宝6年（754）以降の史料にみえる「東院」、宝亀3年（772）以降の史料にみえる「樫木宮」などの重要な施設が存在したと考えられています。

東院地区の発掘調査は、1960年代末の国の国24号奈良バイパスの建設計画にともなうことにあります。初期の調査は、方下町（約1km四方）と推定されていた平城宮の東側を確認するためにもなされたものでした。ところが、東一坊大路の推定路面部分から井戸や建物などが検出されることになり、平城宮と方下町に疑問がもたらされたため（第22次調査、1664年）、その後の調査で推定東院南門が東西大道をふさぐ形で両側に開いていることが明らかになり、平城宮がさらに東に拡がることが確認されました（第39次調査、1966年）。次いで、東院地区の東限界に検出され、東院の範囲、すなわち平城宮の東限界が確定しました（第44次調査、1956年〜1967年）。この調査で検出された御室ノ御殿と庭園の発掘調査は、発掘調査成果に基づき、現在保存整備して一般公開されています。また、東院地区周辺の調査も、断続的に実施しており、本調査区の西では、大型の建造物や墓などの区画施設などがみつかっています（第292次調査、1998年。第381次調査、2005年）。

2. 調査の概要

（1）検出された遺構の概要

建物9棟（独立柱建物8棟、礎石建物1棟）、塀7基、溝4基、などを検出しました（いずれも第401次調査で検出した遺構を含めます）。検出した建物は、概して建物群で、かつ大型の柱間をもつものが多いため誇張特徴をもっています。

今後の調査の進展により理解が変わることもありますが、現段階での見解は以下の通りです。

遺構の変遷は、 Yoshi1期、 1期・2期・3期 と、そして大きく5つの時期に区分できます。また、調査区の西半部は整地土が残しています。整地土は、西半部に広く残る整地土A（以下、整地土A）と、西側に一部残る整地土Bよりも新しい段階の整地土（以下、整地土B）が確認できます。整地土Aは1期の遺構に、整地土Bは2期の遺構にとどまっています。検出した遺構の時期は、1期・2期が奈良時代前半、3期が5期までが奈良時代後半にあたると考えられます。

1期

建物01： 廻行4間×梁行2間の南北棟建物。柱間幅は10尺間隔（第401次調査の再検出）。

塀02： 廻間8間分検出、柱間幅は10尺間隔。廻り塀区外側に延びます。

塀03： 廻間4間分検出、柱間幅は10尺間隔。第292次調査で検出したSA17801と柱筋をそろえます。

廻り塀04： 廻間3間分検出、柱間幅は10尺間隔。第292次調査で検出したSA17803と柱筋をそろえます。

廻り塀05： 廻間4間分検出、柱間幅は10尺間隔。

廻り塀06： 廻間4間分検出、柱間幅は10尺間隔。第292次調査で検出したSA17803と柱筋をそろえます。

2期

建物07： 廻行4間×梁行4間の東西棟建物。柱間幅は10尺間隔。

建物08： 廻行11間以上の東西棟建物。柱間幅は10尺間隔。懸形が残らず、柱石が見られることから、礎石建物の可能性があります。

建物09： 廻行3間×梁行3間の総柱建物。柱間幅は10尺間隔。

3期

建物10： 廻行15間以上の東西棟建物。柱間幅は10尺間隔。第401次調査で検出したもので、今回の調査で廻り塀区南側の柱間2基を新たに確認しました。

4期

建物11： 南北方向に廻り塀10間以上の東西棟建物。柱間幅は10尺間隔。廻り塀区南側に廻り塀が延びる。

平城宮跡東院地区中枢部の調査

平城第421次調査現地説明会資料

独立行政法人国土交通省
奈良文化財研究所平城宮発掘調査部

2007年9月1日
建物 12：桁行 3 間×梁行 2 間の東西棟建物。建物 11（回廊）がひとつ建物。

石組構 13：建物 11 北側の雨落溝か。柱石の一部が、東西 14 m 以上の範囲に点在して残っています。

石組構 14：調査区の北端で検出した溝の底石（第 401 次調査の再検出）。

性格不明遺構 15：調査区南端で、東西 2.5 m×南北 6 m 分検出しました。さらに調査区外の南へ延長します。西部に築造を、現在で深さ約 50 m であるが、東ではほとんど残されており、両側では簡易の縁取りのみが認められます。

溝 16：性格不明遺構の北端に沿って掘られた溝。構造上に破壊しないと、仮設の縁石が幾つか含まれています。加工痕跡のある縁石は「天井3」（6313A）が検出した。

5 期

建物 16：桁行 9 間×梁行 3 間の東西棟建物。北側に柱をもと。柱間寸法は 10 尺等間。柱伸の抜き穴から、軒丸瓦（6151A）が検出した。

塀 17：東西塀。3 間分検出しました。柱間寸法は 10 尺等間。

その他の遺構 18：溝 18 北南 4.5 分検出し、さらに南北へ続きます。整地 A の中に覆われていることから、1 期以前にさかのぼる遺構と考えられます。

塀 19：東西の塀。5 間分検出しました。柱間寸法は 10 尺等間。

（奈良時代以降の遺構）
建物 20：桁行 3 間×梁行 2 間の東西棟建物。柱間寸法は 7 尺等間。小規模の建物で、奈良時代後半に築造される可能性が示唆される。

（2）東院地区の遺構変遷

1 期

おそそ東院地区西半の南北中軸線にあたる場所に、を中心とする東西建物（SB17840：第 292 次調査・第 401 次調査で検出。以下同様）が築造され、その東側に南北建物（SB17804：第 292 次調査・SB18895；第 401 次調査=本次調査建物 01）が配置されています。また今回の調査では、西側の南北棟（SA17802；第 292 次調査）に対応する切版区画の存在が検出されているが、位置設定よりも南部で南南東（面 02）を検出した。

2 期

1 期の面 02 が取り払われた区画と北に拡がり、東側の区画の北も後年ー大規模に利用されているようである。建物の柱筋は、北東に並行する。図面をもつ 9 間×4 間の東西棟建物（建物 37）と桁行 11 間以上×梁行 2 間の南北建物（建物 08）が検出されたが、建物 07 と同じ規模の東西建物（SB18805：第 401 次調査）が南南東方向にあり、この時期の遺構はさらに細分化できるようである。

3 期

東院の大規模東西に区画する南部築（SA18915；第 401 次調査）が検出されている。東側に建物 10（SB18916；第 401 次調査）が築造された。南東部の区画はさらに東北方向に拡がると推測されている。

4 期

南部築（SA17825；第 292 次調査・第 401 次調査）の北側に設定され、その東側に、建物 12 と回廊（建物 11）に区画される東院の内部が形成される。南東部に属する建物は今回の調査区ではみつかっていませんが、その集落は、3 期と同じく東北方向の未検出区に推測できます。

5 期

東西棟の建物 16 が築造される。この建物は、東院南門（建物 37）から北へ約 500 尺（約 150 m）の南北中軸線上にあり、計画的に配置されています。この時期固定的遺構は、南北建物（SB18035；SB18936；第 401 次調査）のほか、建物 16 前面の東西棟 17 が築造される。区画の西の端は、4 期の南部築（SA17825；第 292 次調査・第 401 次調査）が存続したと推測されます。この時期の中心建物群は、3 期・4 期と同様に調査区の北東、あるいは東方で展開すると推測されます。その詳細は今後の調査によって明らかになると考えられます。

3. まとめ－調査の成果

①東院地区において、東院内陣ともいうべき中央部を囲む区画は用をはじめて確認されました。この区画では、回廊（回廊）に東西建物が作りつづくものと推測され、この給水における給水が存在したことを推測します。回廊（回廊）については、奈良時代後期と推定される。

②東院地区の遺構変遷を考える上で大切な手がかりを提供しました。東院の建物配置については、東院南門（建物 01）の南北中軸線による配置が明らかになりました。東院が形成されたときは、広大なものであったと推測されます。区画の西の端は、3 期の端で、東院地区全体の調査は順調に進んでいることが指摘できると思われます。

③文献史料にみられる「東院」や「楊栞宮」と検出した遺構の対応関係は、これまでの調査成果では決定的である資料を欠き、今後の課題を残しています。北東方向を含めた未調査区における今後の調査に期待したいと思います。

なお、本調査は 9 月に終了した予定ですが、都域発掘調査部（平城宮）では、ここでつくおり東院地区の積絵的な調査を計画しており、10 月には今回の調査区の北西に新たな調査区を設定する予定です。

現地説明会のご案内を電子メールに切り替えております。ご希望の方は、お名前、住所、メールアドレスを下記アドレス宛てお送りください。

E-mail アドレス heljo@nabunken.go.jp
図2 平城第421次調査遺構図
図3  周辺調査区の遺構変遷図
図4 掘立柱の廃棄方法
（宮本長二郎 1986『平城京 古代の都市計画と建築』
 日本人はどのように建物をつくってきたか7、草思社）

図5 柱穴の模式図

図6 礎石据付状況の模式図

図7 掘立柱塹の模式図
（宮本長二郎 1986『平城京 古代の都市計画と建築』
 日本人はどのように建物をつくってきたか7、草思社）

図8 単廊のイメージ図